



市町村の道路インフラの維持管理に対する
効率化・高度化・戦略化に関するセミナー

トンネル運用廃止の考え方

1. トンネル維持管理の現状
2. トンネル廃道・廃止のメリット
3. 北陸市町村の事例（ヒアリング）
4. トンネル廃道・廃止の分類
5. トンネル廃道・廃止の事例
6. 今後の進め方

金沢工業大学 木村研究室
株式会社エヌイーエス
アルスコンサルティング株式会社

1

1. トンネル維持管理の現状

- ① 道路トンネルは、山間部や急峻な地形など、従来の道路による通行が困難な地域の交通確保や、距離短縮、冬季の交通確保などを目的とし、重要な交通インフラとして整備。
- ② 我が国では、高度経済成長期における道路交通需要の急増に対応し、橋梁や道路トンネルを大量に建設してきた経緯を持つ。

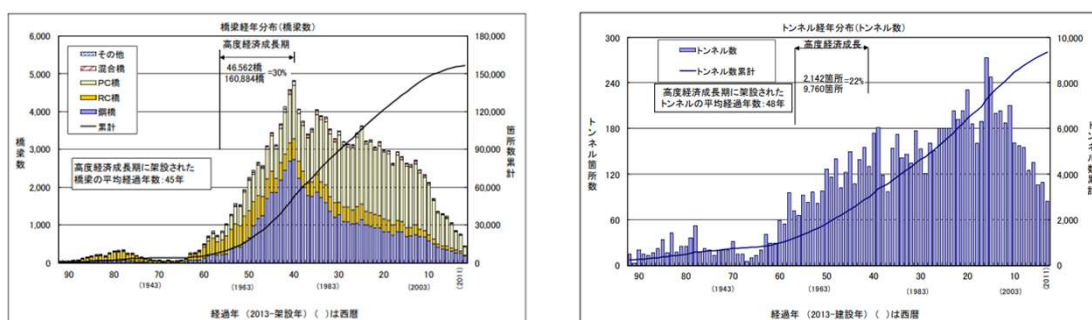
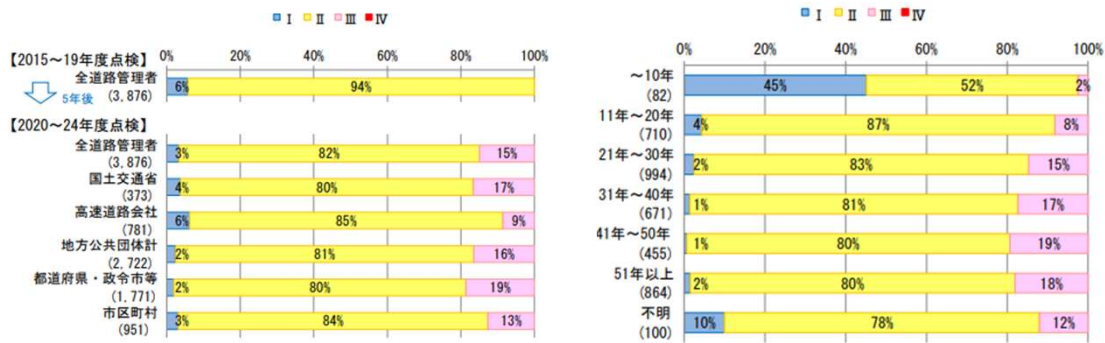


図 橋梁及びトンネルの経年分布
(出典: 国総研資料第825号 平成25年度道路構造物に関する基本データ集)

2

1. トンネル維持管理の現状

- ① 多くの道路トンネルは、コンクリートの劣化や覆工の損傷、排水設備の老朽化、照明・換気設備の陳腐化など、維持管理の面で課題が顕在化。
- ② 特にトンネルは地下構造物として点検・補修が困難であり、重大な事故等が発生した場合の影響も大きい。
- ③ 適切な維持管理ができない場合、覆工コンクリート片の剥落、漏水や断面欠損、設備の故障、最悪の場合は通行止めや重大事故(第三者被害を含む)に至るリスクがある。



管理者別の判定区分の遷移

建設後経過年数別の遷移

図 道路トンネル点検結果による健全性の遷移(出典:2025道路メンテナンス年報)

3

1. トンネル維持管理の現状

- ① 地方公共団体では、人口減少や税収の減少に伴う財政基盤の弱体化が進んでおり、社会資本全体の維持管理コスト増大の中で、老朽化した道路トンネルの維持更新費用の確保が大きな課題。
- ② 地域の実情や交通需要等を踏まえ、廃道・廃止を選択肢とし、長期的なコスト縮減および安全性向上を図ることが有効。
- ③ 老朽化に伴う点検・補修・更新の業務が増加する一方で、道路等インフラ管理を担う土木技術者の確保は年々困難。
- ④ 特にトンネルはその特殊性から高度な知見・経験を有する人材が必要だが、地方の小規模自治体ほど該当分野の職員が不足。

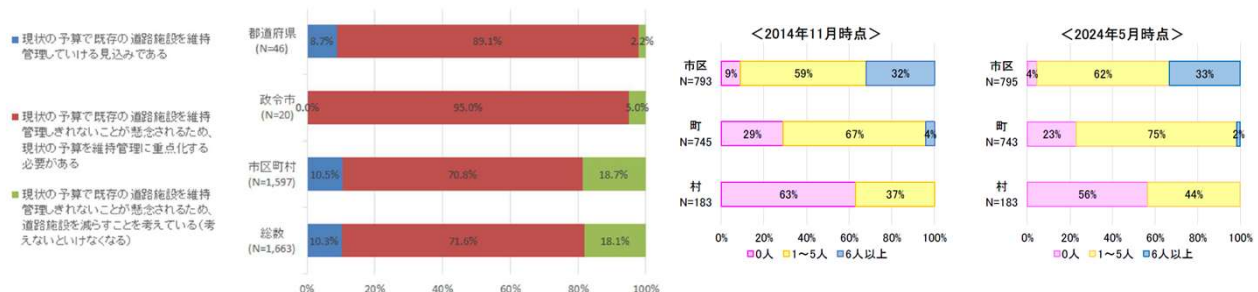


図 現状の予算に対する道路施設の維持管理(点検・修繕)状況について
(出典:2019年6月道路局資料)

図 市区町村における橋梁管理に携わる土木技術者の人数
(出典:2024年道路局資料)

4

2. トンネル廃道・廃止のメリット

- ① トンネルの廃道・廃止により、対象トンネル本数が減り、定期点検や補修、大規模な補強・更新工事の必要性が減少。
- ② これにより、限られた予算や人員で効率的に管理ができるようになり、全体の維持管理コストが大きく削減。
- ③ 老朽化したトンネルを廃止することで、万が一の構造的欠陥や事後の損傷・崩落といったリスクから解放。
- ④ 管理対象が減ることで、定期的な点検や補修計画の立案・実施といった手間が大幅に軽くなる。
- ⑤ 廃道・廃止によって余剰となった資源や予算を、本当に機能維持が必要な主要路線やトンネルの高度化・長寿命化に回すことが可能。
- ⑥ 管理職員の人的リソースも、より重要なインフラ管理に集中することが可能。
- ⑦ 老朽化したトンネルの利用を停止することで、通行中の崩落等の重大な事故リスクを排除

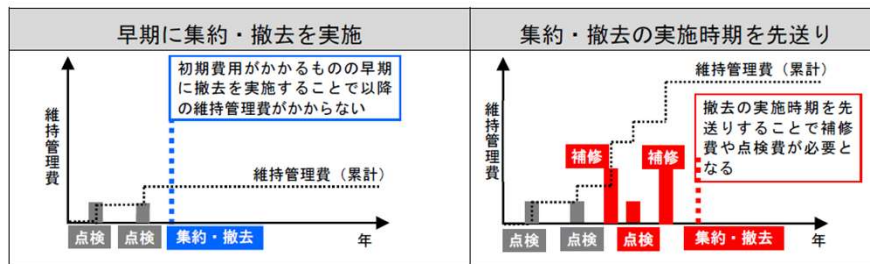


図2 廃道・廃止に取り組むタイミングの違いによる費用比較(イメージ) (出典: 道路橋等の廃道・廃止事例集 2025道路局)

5

3. 北陸市町村の事例(ヒアリング)

廃道・廃止の進捗状況

加賀市の事例(ヒアリングより)

- ◇現在、四十九院隧道(173m)、大内隧道(60m)が通行止め
⇒バイパス道路の開通に伴い、住民説明後、トンネルのみ通行止め
- ◇R2.3市道路線の認定及び廃止に関する要綱が制定された。
⇒市道路線廃止の条件、要件について



加賀市四十九院隧道
⇒廃止トンネル(通行止め)の事例

富山市の事例(ヒアリングより)

- ◇ネンジョウタニトンネル(37m)が廃止(通行止め措置)
- ◇妙巖隧道(260m)、砂蔵トンネル(207m)が通行止め
- ◇トンネルの廃道の意思決定の流れを「廃道・廃止の措置を決定する構成(案)」に整理



富山市妙巖隧道
⇒廃止トンネルの事例

白山市の事例(ヒアリングより)

- ◇数瀬隧道(30m)が廃止(現在埋め戻し作業中)
- ◇トンネルの廃道の意思決定の流れを「廃道・廃止の措置を決定する構成(案)」に整理

6

4. トンネル廃道・廃止の分類

- ① トンネルは、橋梁とは構造が異なることから、あえて「集約・撤去」に合わせる必要はなく、従来から使用している「廃道・廃止」とする。
- ② 廃道は、橋梁でいう集約に伴う道路の廃止を目的とすることをいう。
- ③ 廃止は、橋梁でいう撤去に値することをいう。
- ④ 北陸の事例をもとに下表のように分類を行った。これらの事例を収集し、手引きを完成させる。

表 廃道・廃止の事業内容(道路トンネル)

事業内容	概要	目的	事例トンネル	事業内容	概要	目的	事例トンネル
廃止	迂回路整備を伴わず現有トンネルを閉鎖・廃止	老朽化 対応	妙蔵隧道(富山市) ネンジョウタニトンネル(富山市) https://ameblo.jp/meindl/entry-12637725448.html	ダウンサイジング (既設縮小化)	現有トンネルを車道から歩行者・自転車専用等、小規模機能に転換	老朽化+ 主要路 線への 付替え	
廃止+迂回路整備	トンネル廃止と並行して、通行に必要な新たな地上経路や別トンネルを整備(複数トンネルの場合も含む)	老朽化+ 主要路 線への 付替え	数瀬隧道(白山市) 砂蔵トンネル(富山市) 大内隧道(加賀市) 四十九院隧道(加賀市)	ダウンサイジング (新設縮小化)	道路トンネルを廃止し、シェルターなど多目的な活用を行う。	老朽化 対応	

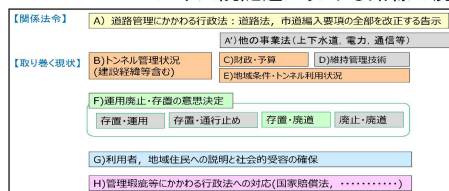
7

5. トンネル廃道・廃止の事例

以下の書式で事例をまとめる。

- ① 位置図、写真、トンネル諸元
- ② 廃道・廃止の経緯
- ③ プロセス(関係法令、現状、措置状況等)
- ④ 特記事項

四十九院隧道における路線の廃止事例



【ヒアリングした市】
加賀市 土木課

【廃道の経緯】

事項	年月日	概要
市道移管	平成12年12月18日	主要地方道山中・伊切線四十九院トンネル完成時に旧道部が市に移管(市道D第320号線として認定)される。
道路ストック 線点検	平成26年3月14日	四十九院隧道の点検結果、「直ちに(1年以内)修繕」必要なレベルと判明する。
隧道閉鎖	平成30年6月2日	緊急措置として隧道を閉鎖して経過観察する。
法定点検	平成30年3月9日	法定点検により現況確認(健全度Ⅳ(緊急措置段階))
市道廃止	令和2年3月	隣接町内会・地権者から辟除要望がないことから廃止し、道路部分を市道として管理するため再認定する。
市道認定	令和2年3月	

【ポイント】

- ・地権者は、トンネル構造物以外の環境保全(雑草・落石処理等)を市にお願いしたいとの意向あり。市としては、加賀市直営業者が3班(3名/班)あり、環境保全に対応している。
- ・通行止めの柵を施しているが、トンネル内は現状維持のままである。

【トンネルの現状】



四十九院側



山中温泉東町側

【路線廃止区間】



【トンネル諸元】

路線名	市道D第320号線 東町四十九院線
延長	173m
完成年月	1958年(昭和33年)
幅員	5.0m
掘削工法	矢板工法
トンネル等級	D等級
点検結果	Ⅳ(外力・材質劣化)

8

6. 今後の進め方

■手引き「道路トンネル廃道・廃止編」作成に向けて

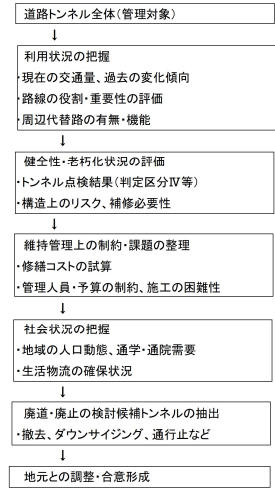
道路橋等の集約・撤去事例集
令和7年3月
国土交通省 道路局



構成を併せる
・事例集のスタイル
⇒北陸のトンネルを使って

目次構成	記載事項	活用例
1.はじめに	背景、目的	
2.道路トンネルにおける廃道・廃止の意義	地方公共団体において、集約・撤去に取り組むきっかけとなるよう、道路トンネルの集約・撤去の必要性・意義、メリットなどの整理。	住民や関係者に対する意義や必要性の説明
3.道路トンネルにおける廃道・廃止事例	対象トンネルの概要、位置図、事業内容、集約・撤去の経緯、担当課等を整理して紹介。	集約・撤去対象候補の抽出/選定、事業内容選定
4.トンネルの集約・撤去に関する検討項目・留意事項	集約・撤去を進めるうえでの主な検討項目（点検、利用状況評価、代替路の検討、コスト効果等）や留意事項を整理。	実際に検討や計画を行う際の参考資料
5.利用者・住民対応、関係機関調整	合意形成プロセス、説明会や資料の内容・事例、関係機関との協議等における留意点。	合意形成や調整時の参考

廃道・廃止に向けた流れ(例)



9

6. 今後の進め方

■データ収集⇒全国展開に向けた取り組み

- ① 2026年の市町村が管理するトンネルを対象に行う
- ② 廃道・廃止が望ましいと考えられる候補トンネルを選定

トンネル本数	新潟県	富山県	石川県	福井県
	48	28	33	41

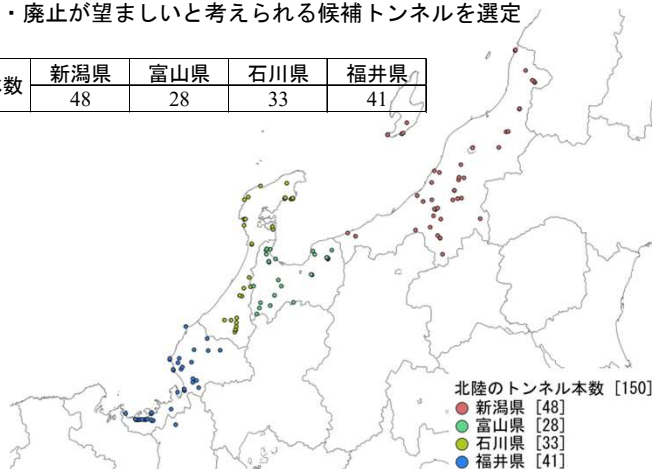


図 北陸のトンネル本数

xROADからのデータ収集

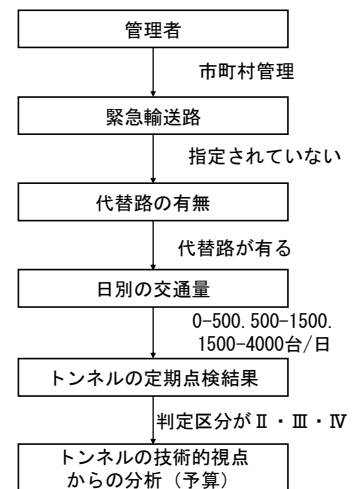


図 トンネルの機能によるスクリーニング

10

6. 今後の進め方

■データ収集⇒全国展開に向けた取り組み

2026年

- ✓北陸地域の廃道・廃止に関するトンネルを抽出する。
- ✓市町村にヒアリングした結果をもとに、トンネルの廃道・廃止の事例集から、個別性（トンネルの重要課題の抽出）を分析する。

2027年

- ✓全国の廃道・廃止されるトンネルのスクリーニングを実施する。
- ✓廃道・廃止の事例集の分析結果を基に市町村を選定し、ヒアリングを実施し、事例を増やし、個別性の特性を高め、全国の市町村が利用できるマニュアルを作成する（全国展開）。